

大学院教育学研究科高度教育支援開発専攻
学位プログラム



大阪教育大学
OSAKA KYOIKU UNIVERSITY

目 次

心理・教育支援コース	1
国際協働教育コース	3
教育ファシリテーションコース	5

大学院教育学研究科 高度教育支援開発専攻

心理・教育支援コース

取得できる学位：修士（教育学）

◆学位プログラムの概要と人材養成のねらい

学部レベルの心理学を体系的に学び終え、教育分野を中心とした心理支援の専門家を目指す者を対象として、心理学に関する高度な理論と実践スキルを身に付け、「教育領域に強い心理支援の専門的知識と技能を有する人材」として教育にまつわる様々な問題に対し、他職種と連携・協働しながら解決にあたることのできる人材や、その成果を社会に還元できる研究スキルを有する人材を養成します。そのため、国家資格である公認心理師の受験資格の取得を原則とし、教員養成大学としての本学の強みを活かしながら、臨床心理学を専門とする教員の教育研究指導を通して、「チーム学校」や教育・学習支援に必要とする知識、技能を身に付け、実践的に支援できる力を育成します。

◆学位プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

大学院教育学研究科は、教育・学習支援の実践力と課題分析力を備え、自らが有する専門性と異分野の知見を組み合わせ学校・家庭・地域の教育に最適化できる先導的手法を深く探求し、教育現場の課題解決・価値創造の一翼を担う高度な人材を養成することを目標としています。

この目標に基づき、所定の単位を修得し、教育現場における課題の「発見・理解力」と「分析力」、教育課題解決の企画力、特定の分野における深化した専門的知識・技能、人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力を有する者で、学位論文審査及び最終試験に合格した者に修士（教育学）の学位を授与します。

（１）教育現場における課題の「発見・理解力」と「分析力」

- ・グローバル化・多様化・複雑化した現代社会において、保健医療・福祉・教育などの様々な場面において、顕在化した、あるいは潜在的な心理学的支援の必要な課題を発見し、その本質を理解できる。
- ・それらの課題について、自らの専門分野と関連づけて高度に分析できる能力を有している。

（２）教育課題解決の企画力

- ・高度な専門的知識・能力を活用し、課題解決に向けた心理学的手法、道筋を企画し、積極的に行動することができる。

（３）特定の分野における深化した専門的知識・技能

- ・所属するコースの高度な専門的な知識・能力を身に付けている。
- ・それらの高度な専門的知識・技能をさらに自ら深化させていく能力を有し、理論面・実践面から心理学的課題の解決に向けた深い省察ができる。

（４）人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力

- ・心理学的支援の必要な課題に対し、異なる領域・分野の人々や、社会人・学校教員・地域社会のメンバーなどと協働して問題解決ができる。
- ・学校や社会の様々な組織をコーディネートし、分野・組織の異なる人々の協働をリードできる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院教育学研究科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針を踏まえ、「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」、「教育課題解決の企画力」、「特定の分野に

置ける深化した各領域の知識・技能」及び「人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力」を統合的に身に付けることを目的として、カリキュラムは以下のとおり次のように体系的に編成し、実施するものとします。

- ① 「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」を有する専門的人材として備えるべき基盤的素養を修得することを目的として「専攻共通科目」を設定します。
- ② 自らの思考の軸となる専門分野の「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」を修得し、これを基盤に「教育課題解決の企画力」までつなげることができる力量を育成するとともに、「特定の分野における深化した各領域の知識・技能」を育成するために、自らの思考の軸となる専門領域の知識・技能を基盤として、理論と実践を往還して分析省察するための技能を修得することを目的とし「コース・領域専門科目」を設定します。
- ③ 「教育課題解決の企画力」を基盤とし、「人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力」を育成することを目的として、「フィールド研究科目」を設定します。
- ④ ①～③を通じて、自らの教育・学習支援実践における課題を設定し、専攻共通科目、コース・領域専門科目、フィールド研究科目での学びと関連させながら学術的に考察し、修士論文に結実させることを目的として「課題研究科目」を設定します。

①～④の実施については、主体的・対話的で深い学びを提供します。具体的には、講義に加えて、グループワーク、発表、討論等の活動を取り入れます。

①～③の成績評価については、試験・レポートのほか、グループワーク、発表、討論等の活動も重視します。

④の成績評価については、調査・計画・実施・評価及び改善のサイクルを繰り返すこと、それらの過程における同僚等とのコミュニケーションや協働を重視します。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

【高度教育支援開発専攻】

○ 求める学生像

卒業認定・学位授与の方針に定める資質・能力を育成するために編成された教育課程を履修する学生として次に掲げる人材を広く求めます。

- ・ 学校や地域が抱える教育課題の解決に強い関心を有している人
- ・ 特定分野において専門性や優れた実務・実践経験を有し、これを活用して教育・学習支援に参画する意欲を有している人
- ・ 教育現場の課題について実践的研究を行うことで、学校改革に向けて先導的・中核的な役割を担う意欲を有している人

【心理・教育支援コース】

- ① 学士課程において公認心理師国家試験受験資格に必要なすべての科目を修めており、修士課程において必要とされる科目を修める強い意志のある人
- ② 心理支援に関する高度な知識とスキルを身につけ、社会に貢献しようとする強い意欲を有している人
- ③ スクールカウンセラーや教育相談員等の専門職の立場から教育を支援する意欲を有している人

大学院教育学研究科 高度教育支援開発専攻

国際協働教育コース

取得できる学位：修士（教育学）

◆学位プログラムの概要と人材養成のねらい

大学院教育学研究科は、教育・学習支援の実践力と課題分析力を備え、自らが有する専門性と異分野の知見を組み合わせ、学校・家庭・地域の教育に最適化できる先導的手法を深く探求し、教育現場の課題解決・価値創造の一翼を担う高度な人材を養成することを目標としています。

この目標に基づき、所定の単位を修得し、教育現場における課題の「発見・理解力」と「分析力」、教育課題解決の企画力、特定の分野における深化した専門的知識・技能、人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力を有する者で、学位論文審査及び最終試験に合格した者に修士（教育学）の学位を授与します。

◆学位プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

大学院教育学研究科は、教育・学習支援の実践力と課題分析力を備え、自らが有する専門性と異分野の知見を組み合わせ、学校・家庭・地域の教育に最適化できる先導的手法を深く探求し、教育現場の課題解決・価値創造の一翼を担う高度な人材を養成することを目標としています。

この目標に基づき、所定の単位を修得し、教育現場における課題の「発見・理解力」と「分析力」、教育課題解決の企画力、特定の分野における深化した専門的知識・技能、人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力を有する者で、学位論文審査及び最終試験に合格した者に修士（教育学）の学位を授与します。

（１）教育現場における課題の「発見・理解力」と「分析力」

- ・グローバル化・多様化・複雑化した現代社会において、学校教育及び日本語教育を取り巻く様々な場面において、顕在化した、あるいは潜在的な理系分野や日本語教育支援分野の教育課題を発見し、その本質を理解できる。
- ・それらの教育課題について、自らの専門分野と関連づけて高度に分析できる能力を有している。

（２）教育課題解決の企画力

- ・高度な専門的知識・能力を活用し、理系分野や日本語教育支援分野の教育課題解決に向けた手法、道筋を企画し、積極的に行動することができる。

（３）特定の分野における深化した専門的知識・技能

- ・所属するコース・領域の高度な専門的な知識・能力を身に付けている。
- ・それらの高度な専門的知識・技能をさらに自ら深化させていく能力を有し、理論面・実践面から理系分野や日本語教育支援分野の教育課題の解決に向けた深い省察ができる。

（４）人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力

- ・理系分野や日本語教育支援分野の教育課題に対し、異なる国や文化、他の領域・分野の人々や、社会人・学校教員などと協働して問題解決ができる。
- ・各国・地域、学校や社会の様々な組織をコーディネートし、分野・組織の異なる人々の協働をリードできる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院教育学研究科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針を踏まえ、「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」、「教育課題解決の企画力」、「特定の分野に

置ける深化した各領域の知識・技能」及び「人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力」を統合的に身に付けることを目的として、カリキュラムは以下のとおり次のように体系的に編成し、実施するものとします。

- ① 「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」を有する専門的人材として備えるべき基盤的素養を修得することを目的として「専攻共通科目」を設定します。
- ② 自らの思考の軸となる専門分野の「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」を修得し、これを基盤に「教育課題解決の企画力」までつなげることができる力量を育成するとともに、「特定の分野における深化した各領域の知識・技能」を育成するために、自らの思考の軸となる専門領域の知識・技能を基盤として、理論と実践を往還して分析省察するための技能を修得することを目的とし「コース・領域専門科目」を設定します。
- ③ 「教育課題解決の企画力」を基盤とし、「人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力」を育成することを目的として、「フィールド研究科目」を設定します。
- ④ ①～③を通じて、自らの教育・学習支援実践における課題を設定し、専攻共通科目、コース・領域専門科目、フィールド研究科目での学びと関連させながら学術的に考察し、修士論文に結実させることを目的として「課題研究科目」を設定します。

①～④の実施については、主体的・対話的で深い学びを提供します。具体的には、講義に加えて、グループワーク、発表、討論等の活動を取り入れます。

①～③の成績評価については、試験・レポートのほか、グループワーク、発表、討論等の活動も重視します。

④の成績評価については、調査・計画・実施・評価及び改善のサイクルを繰り返すこと、それらの過程における同僚等とのコミュニケーションや協働を重視します。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

【高度教育支援開発専攻】

○ 求める学生像

卒業認定・学位授与の方針に定める資質・能力を育成するために編成された教育課程を履修する学生として次に掲げる人材を広く求めます。

- ・学校や地域が抱える教育課題の解決に強い関心を有している人
- ・特定分野において専門性や優れた実務・実践経験を有し、これを活用して教育・学習支援に参画する意欲を有している人
- ・教育現場の課題について実践的研究を行うことで、学校改革に向けて先導的・中核的な役割を担う意欲を有している人

【国際協働教育コース】

- ① 学士課程で学んだ自身の専門研究分野に関して基礎的な知識と強い関心を有している人
- ② 各国・地域の日本型教育システムに関する実践研究に取り組み、その成果を教育現場に反映させ、教育課題の解決の一翼を担う意欲を有している人
- ③ 日本語教育支援に関する実践研究に取り組み、教育を通して多文化共生社会の実現と持続に貢献しようとする意欲を有している人
- ④ 日本型教育システムや日本語教育支援についての研究成果を国際的に発信するためのコミュニケーション能力・語学力を有している人

大学院教育学研究科 高度教育支援開発専攻

教育ファシリテーションコース

取得できる学位：修士（教育学）

◆学位プログラムの概要と人材養成のねらい

AI，生涯教育，芸術及び健康安全，スポーツなど，様々な分野の優れた専門的能力を有する社会人を受入れ，地域や学校が抱える教育課題を発見・理解し，自らが有する知識・技能，経験と異分野の知見を組み合わせることで深く探究し，教育現場の課題解決・価値創造を担う人材を養成します。

◆学位プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

大学院教育学研究科は，教育・学習支援の実践力と課題分析力を備え，自らが有する専門性と異分野の知見を組み合わせることで学校・家庭・地域の教育に最適化できる先導的手法を深く探求し，教育現場の課題解決・価値創造の一翼を担う高度な人材を養成することを目標としています。

この目標に基づき，所定の単位を修得し，教育現場における課題の「発見・理解力」と「分析力」，教育課題解決の企画力，特定の分野における深化した専門的知識・技能，人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力を有する者で，学位論文審査及び最終試験に合格した者に修士（教育学）の学位を授与します。

（１）教育現場における課題の「発見・理解力」と「分析力」

- ・グローバル化・多様化・複雑化した現代社会において，学校及びそれを取り巻く様々な場面において，顕在化した，あるいは潜在的な教育課題を発見し，その本質を理解できる。
- ・それらの教育課題について，生涯教育学の知見と自らの専門分野や実践経験を関連づけて高度に分析できる能力を有している。

（２）教育課題解決の企画力

- ・教育的アプローチについて理解を深め，自らの高度な専門的知識・能力を活用して，教育課題解決に向けた事業や手法を開発し，積極的に展開していくことができる。

（３）特定の分野における深化した専門的知識・技能

- ・所属するコース・領域の高度な専門的な知識・能力を身に付けている。
- ・それらの高度な専門的知識・技能をさらに自ら深化させていく能力を有し，理論面・実践面から教育課題の解決に向けた深い省察ができる。

（４）人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力

- ・地域の様々な教育課題の解決に向けて，学校教員や関係する組織との間でチームを組織化することができる。
- ・学校や地域の様々な組織との協働チームの運営をコーディネートし，課題解決に向けての協働事業をリードできる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院教育学研究科の教育課程は，卒業認定・学位授与の方針を踏まえ，「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」，「教育課題解決の企画力」，「特定の分野に置ける深化した各領域の知識・技能」及び「人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力」を統合的に身に付けることを目的として，カリキュラムは以下のとおり次のように体系的に

編成し、実施するものとします。

- ① 「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」を有する専門的人材として備えるべき基盤的素養を修得することを目的として「専攻共通科目」を設定します。
- ② 自らの思考の軸となる専門分野の「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」を修得し、これを基盤に「教育課題解決の企画力」までつなげることができる力量を育成するとともに、「特定の分野における深化した各領域の知識・技能」を育成するために、自らの思考の軸となる専門領域の知識・技能を基盤として、理論と実践を往還して分析省察するための技能を修得することを目的とし「コース・領域専門科目」を設定します。
- ③ 「教育課題解決の企画力」を基盤とし、「人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力」を育成することを目的として、「フィールド研究科目」を設定します。
- ④ ①～③を通じて、自らの教育・学習支援実践における課題を設定し、専攻共通科目、コース・領域専門科目、フィールド研究科目での学びと関連させながら学術的に考察し、修士論文に結実させることを目的として「課題研究科目」を設定します。

①～④の実施については、主体的・対話的で深い学びを提供します。具体的には、講義に加えて、グループワーク、発表、討論等の活動を取り入れます。

①～③の成績評価については、試験・レポートのほか、グループワーク、発表、討論等の活動も重視します。

④の成績評価については、調査・計画・実施・評価及び改善のサイクルを繰り返すこと、それらの過程における同僚等とのコミュニケーションや協働を重視します。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

【高度教育支援開発専攻】

○ 求める学生像

卒業認定・学位授与の方針に定める資質・能力を育成するために編成された教育課程を履修する学生として次に掲げる人材を広く求めます。

- ・学校や地域が抱える教育課題の解決に強い関心を有している人
- ・特定分野において専門性や優れた実務・実践経験を有し、これを活用して教育・学習支援に参画する意欲を有している人
- ・教育現場の課題について実践的研究を行うことで、学校改革に向けて先導的・中核的な役割を担う意欲を有している人

【教育ファシリテーションコース】

- ① 学校や地域が抱える教育課題の解決に強い関心を有している人
- ② 以下のいずれかの専門性や優れた実務・実践経験を有し、これを活用して新時代の学校改革や教育現場の課題解決の一翼を担う意欲を有している人
 - ・AI・ICT等の先端技術、または、教育行政等に関する領域
 - ・社会教育や福祉、または、美術や音楽などの芸術活動に関する領域
 - ・医療や保健、スポーツなどの健康・安全に関する領域